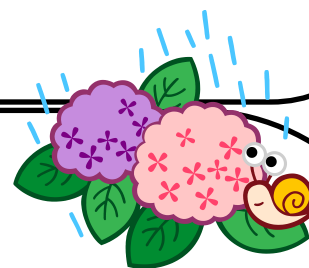


生徒と向き合う時間

生徒の 1 日の生活時間の中では、学校で生活する時間がかなり長いはずですが、中学生は、就寝時間より長い時間を、友達や教師と学校で一緒に過ごします。学校生活が「元気で楽しく」なければならない理由はそこにあります。毎日のことなので、それほど真剣には考えずに当り前のようになっていますが、中学生にとっては、誰が近くにいるのか、友達関係が良好か、居場所があるかが、元気で楽しく過ごせるひとつの要素になります。長い時間学校にいるのだから、担任は常に生徒と向かい合っているだろうと思われがちですが、小学校と異なり教科担任制の中学校では、担任がすべての生徒と毎日じっくり話をすることは難しい現状です。

そこで、本校では「**生徒と向き合う**」基本的なことを大切に、毎学期に一回ずつ教育相談（生徒と担任の面談）を実施しています。1 学期は、6 月 11 日（火）から 7 月 1 日（月）の間に、学年ごとの日程で実施しています。「より生徒を知る」「担任を近くに感じる」良い機会にしたいと思います。

1 学期の最後、7 月 12 日（金）から 18 日（木）の 4 日間に保護者懇談会を実施します。夏休みを前にお子様の学校での様子、夏休みの過ごし方等について担任と懇談されてください。



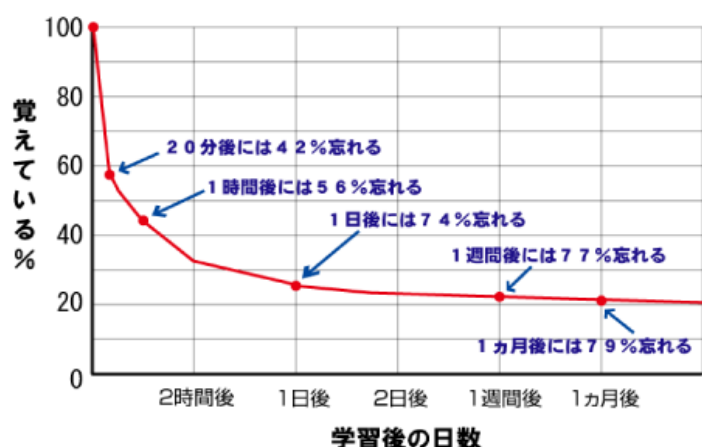
家庭学習のすすめ

下のグラフはドイツの心理学者エビングハウス氏が人間の記憶と時間の関係について、実験によって導き出したものです。人間は、覚えた内容を 1 時間後には 56% 急激に忘れ、その後徐々に忘れ、1 ヶ月後には 79% もの内容を忘れることが実証されています。つまり学校で習った事項を定着させるためには、復習が大切になります。

学校では、朝の学習を工夫したり、授業のはじめに前の時間の復習をしたりしながら次の事項に進めていますが、当然のことながら不十分です。したがって、家庭学習が重要になります。試験前の一時的な記憶の回復でなく、毎日の繰り返し学習が大切なのです。

中学 1 年生なら、家でまずは 1 時間（目安；15 分×学年と言われています。例；1 年生；15×7 の 105 分）、授業の復習をする習慣を付けることに取り組んでみてはどうでしょうか。2 年生、3 年生なら・・・

エビングハウスの忘却曲線



エビングハウスの忘却曲線と復習の関係

